

第3回 京都会館の建物価値継承に係る検討委員会  
京都会館再整備基本設計資料についての考察

平成24年1月13日  
前川建築設計事務所 橋本 功

※受取資料

- 資料1：舞台内高さ27mの考え方について（A案・B案）
- 資料2：近年建設されたホールの諸元について（プロセニウム高さ・簀の子高さ）
- 資料3：配置図・平面図案（1階、2階、3階、4階、5階）
- 資料4：立面図案（南側、西側、北側、中庭第二ホール側）
- 資料5：模型写真とスケッチ
- 資料6：既存意匠の継承に関する項目リスト

A. 継承すべき京都会館の建物価値とは何か、資料を考察する視点を明確にしたいと思います。

京都会館は、寺院の多い京都の景観を意識した平面・空間構成とこれによって醸し出される「佇まい」に特徴があります。そして高さを抑え水平にひろがり、木造寺院の伽藍の懐に包まれたようなダイナミックで静的な「佇まい」を演出している空間構成要素は、以下の内容から成り立っており、これらは継承すべき価値と考えます。

a) 平面・空間構成の継承

- ・山門をくぐるような二条通り側のピロティ、原設計ではコンコースと名付けられた都市における広場的な中庭、そして冷泉通りに抜ける広がりのある第一ホールロビーの平面構成
- ・中庭を囲み第一ホール棟、第二ホール棟、会議棟を配置し、それぞれの賑わいが中庭を介してお互いに感じられる空間構成
- ・二条通りからも、各棟での様子が感じられ、人々を誘う透明感ある内外空間構成
- ・アプローチの道のりを振り返り、巡る流れのような人の動線を意識した平面構成

b) 静的・水平線的な外観の佇まいの継承

- ・人々を迎える大庇の軒の出の深い影と軒先の強い形態
- ・水平に伸びた大庇の外郭ラインと、大庇下の外部テラスと階段を繋ぐ特徴的なPC欄干のラインにより強調される水平線的な佇まい
- ・木造大伽藍の雰囲気醸すピロティを構成するコンクリート系素材の柱と梁フレーム、軒天パネルによる静的で落ち着きある佇まい

c) 時代に左右されない素の材料による空間構成の継承

- ・コンクリート打ち放し、プレキャスト・コンクリート、ホーローブリック、レンガ、石材、パーライトコンクリートパネル、スチールサッシ、積層材など、時代に左右されない、素材そのものが醸し出す風合いを生かした空間構成

## B. 資料の考察 (A の要素を根拠として)

### a) 資料 1)

- ・機能的には簀の子は高いほうが良いが、舞台内寸法は様々な演目があるなかで、絶対的な寸法は限定的に決めにくいものである。

基本計画でも様々に検討されているが、京都会館が目標とする演目等を十分踏まえて、そのレベルが定まるものと思われる。

### b) 資料 2)

- ・資料は、2000 人クラス収容ホールでは、プロセニウム高さは 12 m 程度を妥当とする判断の目安と、簀の子高さも 27 m は決して高すぎる訳ではないことを示している。

これらの数値は各ホール固有の地域的環境条件や主要な演目用途、収容員数、興業的判断などから決められていると思う。

京都会館の場合、既存の佇まいを継承する配慮からフライズのデザイン処理を慎重に行うべきであると思う。

### c) 資料 3)、資料 4)、資料 5)

#### ○1 階平面検討図

- ・楽屋の配置など難しい面は理解したうえで、第一ホールのロビーは出来るだけ広がりある見通し感がほしい (既存は中庭の幅と同じ幅のロビー幅があったので見通し・抜け感の広がりが確保されていた)
- ・美術館別館との外部床をロビーと同じ仕上げにすることは、広がり感に寄与する。

#### ○2 階平面検討図 ○立面図 ○スケッチ

- ・平面計画上第一ホールと第二ホールを繋ぐ共通ロビーは、既存の建物価値の継承として共感する。
- ・しかしロビーを欄干とも覆うガラスのカーテンウォールは、中庭を巡る階段から連続する外部テラスの PC 欄干の存在感を不明瞭にし、中庭の佇まいの水平的構成を損なうことにならないか懸念が残る。透明ガラスで見えるとしても外部を巡る PC 欄干の在り様の継承足り得るか、さらなる検討が期待される。
- ・またカーテンウォールが Low-E 復層ガラスの規格品割り付け風で描かれているが、これも気になる点である。事務所ビルに多く採用されている生産合理性に基づく規格デザインが中庭の外観に違和感を生じさせないか懸念される。
- ・特に前川建築においてサッシ割りは、外観の佇まいを決定づける重要な要素の一つであり、配慮されるべき点と考えている。

#### ○3 階平面検討図

- ・各ホールの共通ロビーと会議棟の共通ロビーがつながる上下の吹き抜けは、魅力的だが、あえて言えば吹き抜けに飛び出している 2 階便所の棚スラブは吹き抜けの魅力を半減させる、気になる点である。

d) 資料4)

- ・第一ホールの客席屋根、フライズの形状は、2回目に頂いた資料に比し違和感がなくなつたと感じる。特にフライズ上部の水平線を強調するデザイン処理は、好感が持てる。

e) 資料5)

- ・模型写真8、9のガラスカーテンウォールの方建ては、垂直線を強調する列柱のように見えて違和感がある。実際にも模型のようなスケールになるのか、気になるところである。

f) 資料6)

- ・資料6に掲げられた部位項目は適切と思う。今後の検討で素材の変換も予想されるが、出来る限り素材感がそのまま生きる素材の採用をお願いしたい。
- ・③スチールサッシ、カーテンウォールについて、コスト面も踏まえたサッシ割り検討は当然だが、前記したようにサッシ割りは重要であるとの認識での検討をお願いしたい。

C. 資料を読んでの印象とお願い

全体としては、まとめられていると敬意を表します。建築はその時代時代の文化・技術を写し出す文化資産と言われておりますが、その建物価値を継承するとは、その時代のデザイン・技術的価値を継承し、次の時代に繋いでいくことであり、原則的には建築のオリジナル性＝オーセンティシティ（デザイン・技術・工法・素材・環境の真実性）をできる限り保持し、あるいは補完することが求められると思います。

こうした作業の遂行にむけては今回の基本設計段階から、実施設計段階、さらには工事段階を通して、常に建築価値の継承という重い役割を意識して素材・技術・工法の検討・検証を重ねることが大切で、関係各位のご尽力をお願い申し上げる次第であります。

以上